福島県南会津郡檜枝岐村における農村舞台の特質
ー南会津地方の農村舞台群との比較を通してー

中谷研究室
〈千年村〉研究ゼミ
1X10A058-8 久保田悠人

農村舞台　檜枝岐村　集落
千葉之家花駒座　舞台建築　農村歌舞伎

図 1　檜枝岐村の奉納歌舞伎の様子

[0、序論]

・第 1 節　はじめに

農村舞台で行なわれる農村歌舞伎は、現在、伝統芸能と言われている。しかしそのはじまりをたどれば、江戸の歌舞伎が元であり当時歌舞伎は農村集落に突然やってきたものであった。そのような歌舞伎が村に定着し「農村舞台建築」として建造されるにいたったのはなぜなのか。

現在も農村舞台が建っており、演目が受け継がれている檜枝岐村の現在を例に調査をし「芸能を演じる場」の特質を探る。

・第 2 節　研究の目的

過去の農村舞台に関する研究では、演者と観客の関係を述べているものは多い。また、建築史では竹内芳太郎[1]氏が舞台建築の機構や、併設していることの多い神社との配置の研究を行なっている。

以上の研究は全国的な分布と立地からの視点での研究である。その舞台が集落の中でどのような位置にあり、その場所は他と比べてどんな特徴を持っているのか、といった集落の中での農村舞台の関係性を研究しているものはなかった。集落というある一定のまとまりをもった共同体の中で、農村舞台はどんな特性を持った空間になり得るのかを探ることが目的である。

・第 3 節　研究の方法

農村舞台を持った集落をひとつ選び、文献資料と現地でのフィールドワークによって明らかにする。今回は福島県南会津郡檜枝岐村を調査する。この集落の選定理由として以下の 3 つがあげられる。

□農村舞台建築が残っている。
□農村舞台建築で伝統芸能が行われている。
□伝統芸能が今でも村の人々で運営されている。

・第 4 節　既往研究

■角田一郎[2]編『農村舞台の総合的研究ー歌舞伎・人形芝居を中心にー』（桜楓社、1971）
芸能史の観点から農村舞台を研究している
■竹内芳太郎『野の舞台』（ドメス出版、1981）
建築史の分野から、舞台機構での分類をしている。

・第 5 節　檜枝岐村概要

面積：390.50 ㎢
（約98%を林野がしめる）
標高：939m（役場所在地）
気候：平均気温 8℃、豪雪地帯
人口：643 人（平成 18 年現在）
主要産業：観光業
（尾瀬、温泉、歌舞伎）
災害：洪水、雪崩、火災

図 2　檜枝岐村の位置

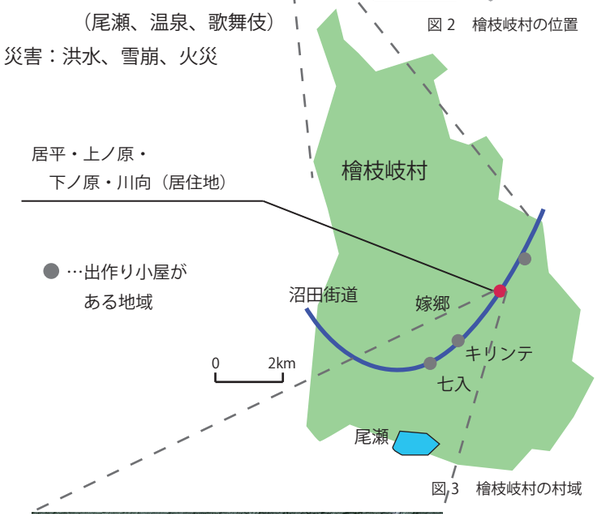


図 3　檜枝岐村の村域

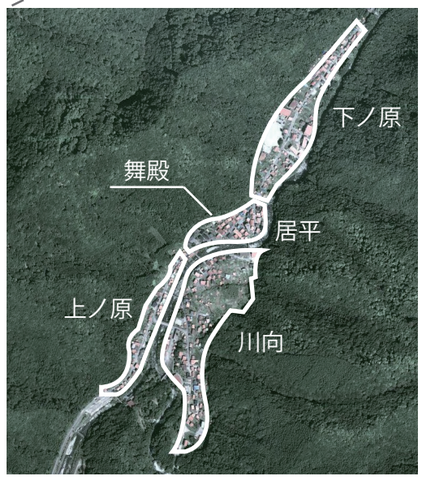


図 4
檜枝岐村の
地域構成について

[1、本論]
第 1 章　檜枝岐の舞台・集落

[調査概要]

調査日程：8/24〜9/8　（事前調査 8/18,19）
調査地：居平・上ノ原・下ノ原（本村）、キリンテ、近隣集落
調査内容：舞台実測（舞殿[3]）、建造物の立地、土地利用状況、出作り小屋実測（キリンテ）、聞き取り（7 人）

[檜枝岐の舞台の実測]

舞殿平面図

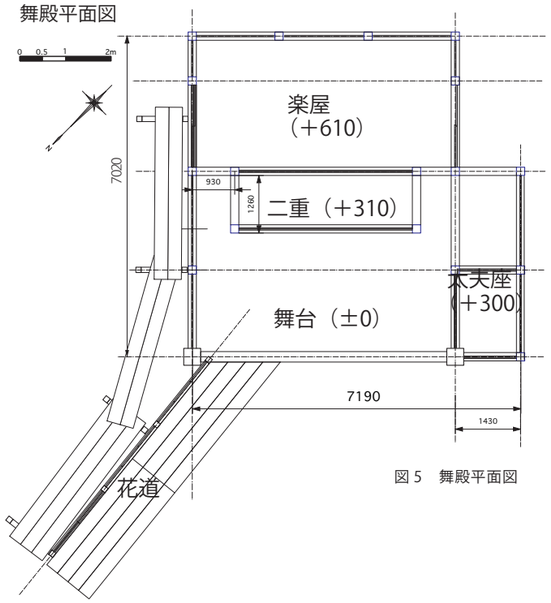


図 5　舞殿平面図

舞殿断面図[4]

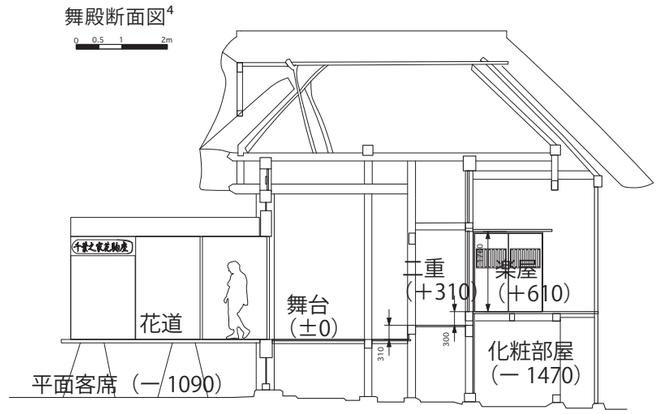


図 6　舞殿断面図

舞台概要
明治 30 年代の再建。茅葺きの兜造りである。他の農村舞台建築と違って二重を固定している関係で、回り舞台はない。花道は本来仮設の機構であるが、最近は観光客の訪れる春から秋は常設している。

第 2 章　南会津郡の農村舞台の比較分析

檜枝岐村の農村舞台に加え、「大桃の舞台」「湯の花の舞台」「滝沢の舞台」「青柳の舞台」の近隣の集落における農村舞台の立地と、各々の伝統芸能の運営状況の比較をおこなった。調査結果をまとめたものが表 1 である。

第 3 章　考察

舞台建築は観光化に合わせて柔軟に対応している。しかし、伝統芸能の運営としては変化をしないことに重点をおいて活動をしていることが分かった。また、近隣集落の農村舞台との配置関係の比較を通して、檜枝岐村は、農村舞台が集落に内包されて存在しているのが特徴であることが分かる。その他の村においては集落境界の端に存在している。この違いが、檜枝岐村の農村舞台建築と伝統芸能の奉納歌舞伎の存続を特徴付けているものであると言える。

結論

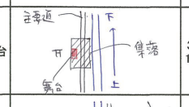
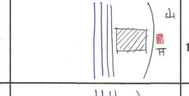
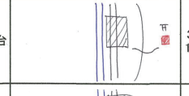
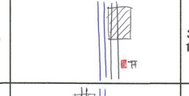
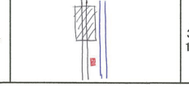
農村舞台建築は通常、集落に面する山林の中や集落の出入り口のような端部に配置されることが多い。しかし、檜枝岐村の舞台においては、居平の集落の中心地内に立地している。これが檜枝岐村の集落における農村舞台立地の特徴であるといえることが分かった。

謝辞

本研究にご協力いただいた福島県南会津郡檜枝岐村の皆様、並びに執筆にあたりお世話になりました中川先生、中谷先生、中谷研究室の皆様に厚く御礼申し上げます。

[注釈]1. 竹内芳太郎　タケウチヨシタロウ（1897–1987）　建築史家。農村舞台に関する著作は『野の舞台』（ドメス出版、1981）がある。1970〜1973 年に行なわれた重要民俗文化財指定調査では建築面の評価を担当している。2. 角田一郎　ツノダイチロウ（1907–）芸能史の研究者。『農村舞台の総合的研究ー歌舞伎・人形芝居を中心にー』（桜楓社、1971）の著者。3. 舞殿　メエデン　檜枝岐村での農村舞台建築の呼び方。4. 断面図の屋根の内部構造は竹内芳太郎『野の舞台』(1981、ドメス出版)p.143 の断面図を参照した。
[図版出典] 1. 檜枝岐村の奉納歌舞伎の様子　筆者撮影 (2013.8.18) 2,3 筆者作成。4. 檜枝岐村の地域構成について　googlemap に筆者加筆。5. 舞殿平面図。6. 舞殿断面図。
表 1. 筆者作成　活動期間と備考部分は渡部康人『会津歌舞伎史』（歴史春秋社、2012）による。

表 1　集落における舞台の比較

舞台名	集落模式図	位置	標高（m）	建築年代	常/仮設	概形(m)	組	神社	運営団体(活動期間)	利用状況	文化財指定	備考
檜枝岐の舞台		37.01186, 139.23067	943	明治30年代再建	常設	間口7.69、奥行き7.04、床高1.13	古町組	鎮守神境内	千葉之家花駒座（現存）	年2回の奉納歌舞伎、観光歌舞伎	昭和51（1976）年に国重要有形文化財に指定	
大桃の舞台		37.0635, 139.27209	695	明治28年再建	常設	間口7.6、奥行き.57、床高1.1	古町組	駒嶽神社境内	大桃座（明治40年に廃絶）	田島から買い芝居	昭和51（1976）年に国重要有形文化財に指定	
湯の花の舞台		37.03572, 139.31438	765	明治22年	常設	間口6.85、奥行き7.8、床高0.8	熨斗戸（のしと）組	二荒山神社境内	湯の花座（不明）	利用していない	昭和57（1982）年に南会津町有形民俗文化財に指定	昭和34年頃まで買芝居？　最近まで例祭の「おこもり」
滝沢の舞台		37.05291, 189.42142	791	不明	常設	間口9.72、奥行き4.95、床高0.94	川島組	鷲神社境内	滝沢座（明治期まで）	利用していない	特になし	
青柳の舞台		37.11435, 139.31378	550（青柳堂）	明治12年	仮設	間口8、奥行き5.5、床高1.4	古町組	青柳堂床下で保管	青柳座（江戸末期〜昭和20年代）	2013年復活（昭和23年が最後の組立て）	特になし	田島祇園祭屋台歌舞伎保存会が行なった（買芝居）